

2023 10/11
WED

No.
403

 JTトラスト グローバル証券

マーケットレポート

Weekly Market Report



 **JTG証券**
JTトラスト グローバル証券

潮流底流

春の需要減に原油軟化インフレ懸念後退

インフレ再加速で消費者の購買力を奪い、米FRB引き締め長期化に米長期金利の上昇、米国株の軟調と米リセッション（景気後退）リスクで元凶視される冬場需要を先取りし9月末1バレル97ドルへ急騰した原油先物だが、春の需要減を織り込み10-11月には軟調推移が見込まれる。米長期金利は4.5%が適正とされ200日移動平均と攻防を演じる米S&P500の強気も不変とされる。

下落アノマリー強い原油「10月相場」

ある国際金融筋によれば、「ロシアとサウジの減産戦略が冬場の需要を織り込む形で上昇基調を辿る9月の原油高アノマリーを支援したが、逆に10-11月の原油相場は春の不需要期を織り込む形で下落アノマリーがあり、原油価格の弱含みがインフレ懸念を後退させ米長期金利上昇一服と米国株の強気維持を支援する」という。

そもそも、ロシアが22年2月24日に平和な隣国ウクライナへ侵略戦争を仕掛けて原油など資源価格が急騰し、軌を一にして米CPIインフレは40年ぶりの高水準へ跳ね上がったが米FRBの苛烈インフレ退治が奏功して米CPIは昨年6月9.1%から3分の1（3.0%）へと鈍化した。

だが、サウジアラビアの減産延長やロシアの輸出削減維持を受けNY原油先物が6月以降に約3割上げ9月末には1バレル97ドルの高値を付けインフレが再加速の様相を呈した。特に、ロシアは今春から原油生産を日量50万バレル、輸出量を日量30万バレル減らし、サウジが9月に自主減産を12月末まで3ヶ月延長を表明、これにロシアも追随し原油先物は90ドル台に乗せ、北海ブレント先物は9月末に一時97ドル台と100ドルに迫った。

原油高にインフレ懸念が増大し米FRBの「Higher for longer（より高く、より長く）」の引き締め長期化観測が強まり、米長期金利は国債増発による需給悪化と相まって5%に迫る上昇が続いた。

特に、10月3日には米8月雇用動態調査（JOLTS）非農業部門の求人件数が961万件と予想（890万件）を上回って米FRB金融引き締め長期化が懸念され米長期金利が一時4.81%まで上昇、米株式3指数が揃って大幅安を強いられた。

何より、原油高はインフレ再加速を懸念させると共に何より消費者の購買力を奪い、米FRB引き締め長期化に米長期金利の上昇、割高感のある高PER（株価収益率）ハイテク株に軟調裡の展開を強いる等リセッション（景気後退）観測の再燃を後押ししつつあった。

米長期金利4.5%適正S&P500「200日MA」維持

ところが、「ロシアとサウジの減産戦略が冬場の需要期を織り込む形で9月原油高アノマリーを支援したが、むしろ原油10月相場は春以降の不需要期を織り込む形で下落アノマリーが強まる」（国際金融筋）というのだ。

しかも、タス通信によると、ロシアのノワク副首相は4日「減産を拡大するか、生産を増やすか決めるため11月、市場を分析する」と述べ戦費調達で苦慮するロシアが11月の合同閣僚監視委員会を経て減産中止に傾斜すれば、原油安に拍車がかかる可能性がありインフレ懸念の後退が期待される。

「リーマン・ショック前の正常とされる金利水準が4.5%前後であり、インフレが鈍化していくと仮定すれば、利回りは4.5%近辺が適正」（米調査会社ヤルデニ・リサーチのエドワード・ヤルデニ社長）－。実際、JPモルガンの試算によれば、米10年債利回りは10月3日終値の4.79%で適正水準を0.4%オーバーシュートしているという。

長期金利上昇がバリュエーション面で株価の重石となっただけに、テクニカル分析で今後数週間に「強気」相場が崩れる可能性が懸念されていた米S&P500指数の200日移動平均（MA）との攻防劇にもある種の安堵感が浮上している。

1年続いた「強気」トレンドが瀬戸際にある米S&P500指数だが、米ウォール街の著名テクニカル分析者によれば、「インフレ懸念や米長期金利上昇など全てが原油高を元凶とした以上、原油先物が10-11月に軟調裡に推移すれば、4204付近に位置する200日MA上に米S&P500指数がとどまる可能性が高い」というのだ。

つまり、春の不需要期を織り込む原油10月相場の軟調推移に伴いインフレ懸念が後退、米国株に下落を強いた長期金利上昇が一服して米S&P500指数「強気相場」は不変とされる。

目次

| | |
|----|----------------|
| 2 | 「潮流底流」 |
| 3 | 目次 / 今週の注目イベント |
| 4 | 世界金利マップ |
| 6 | 国内概況 |
| 7 | 米国概況 |
| 8 | 欧州概況 |
| 9 | ドル円 為替展望 |
| 10 | 中国概況 |
| 11 | 豪州概況 |
| 12 | ブラジル概況 |
| 13 | トルコ概況 |
| 14 | ロシア概況 |
| 15 | インド概況 |
| 16 | 日本株 注目スクリーニング |
| 17 | 日本株 注目カテゴリー |
| 18 | 日本株 注目銘柄1 |
| 19 | 日本株 注目銘柄2 |
| 20 | 日本株 注目銘柄3 |
| 21 | 日本株 注目銘柄4 |
| 22 | 日本株 注目銘柄5 |
| 23 | 経済指標発表 |

今週の注目イベント



(米)9月消費者物価コア指数
12日(木)午後9時30分発表予定

(予想は、前年比+4.1%) 参考となる8月実績は前年比+4.3%。財とサービスの価格の伸びは鈍化した。9月については財とサービスの価格は伸び悩む可能性があるが、大幅な低下は予想されていないことから、コアインフレ率は小幅な低下にとどまる可能性がある。



(中)9月貿易収支
13日(金)発表予定時刻は未定

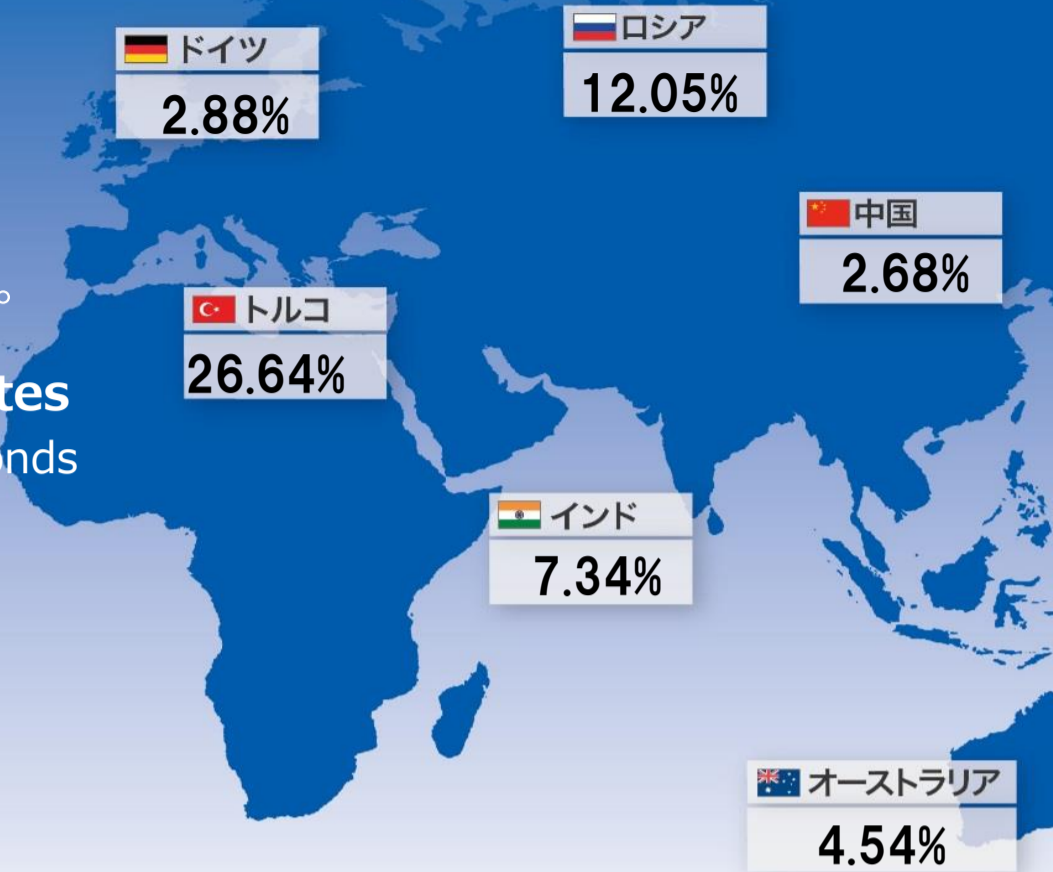
(予想は、+737億ドル(米ドルベース)) 8月実績は683.6億ドル。9月以降も世界経済の減速が観測されているため、輸出増加は期待できない。そのため、9月の貿易黒字額は8月実績を下回る可能性も残る。



(米)10月ミシガン大学消費者信頼感指数速報
13日(金)午後11時発表予定

(予想は、67.5) 参考となる9月実績は68.1で8月の69.5からは低下した。インフレ高止まりの影響で指数は伸び悩んだ。10月についてはインフレ緩和の影響が多少予想されるが、大幅な改善は期待できないことから9月実績を下回る可能性がある。

10年国債金利マップ The Map of Interest rates for 10 years government bonds



世界ニューストピックス

ノーベル経済学賞にゴールディン氏 = 労働市場の男女格差研究

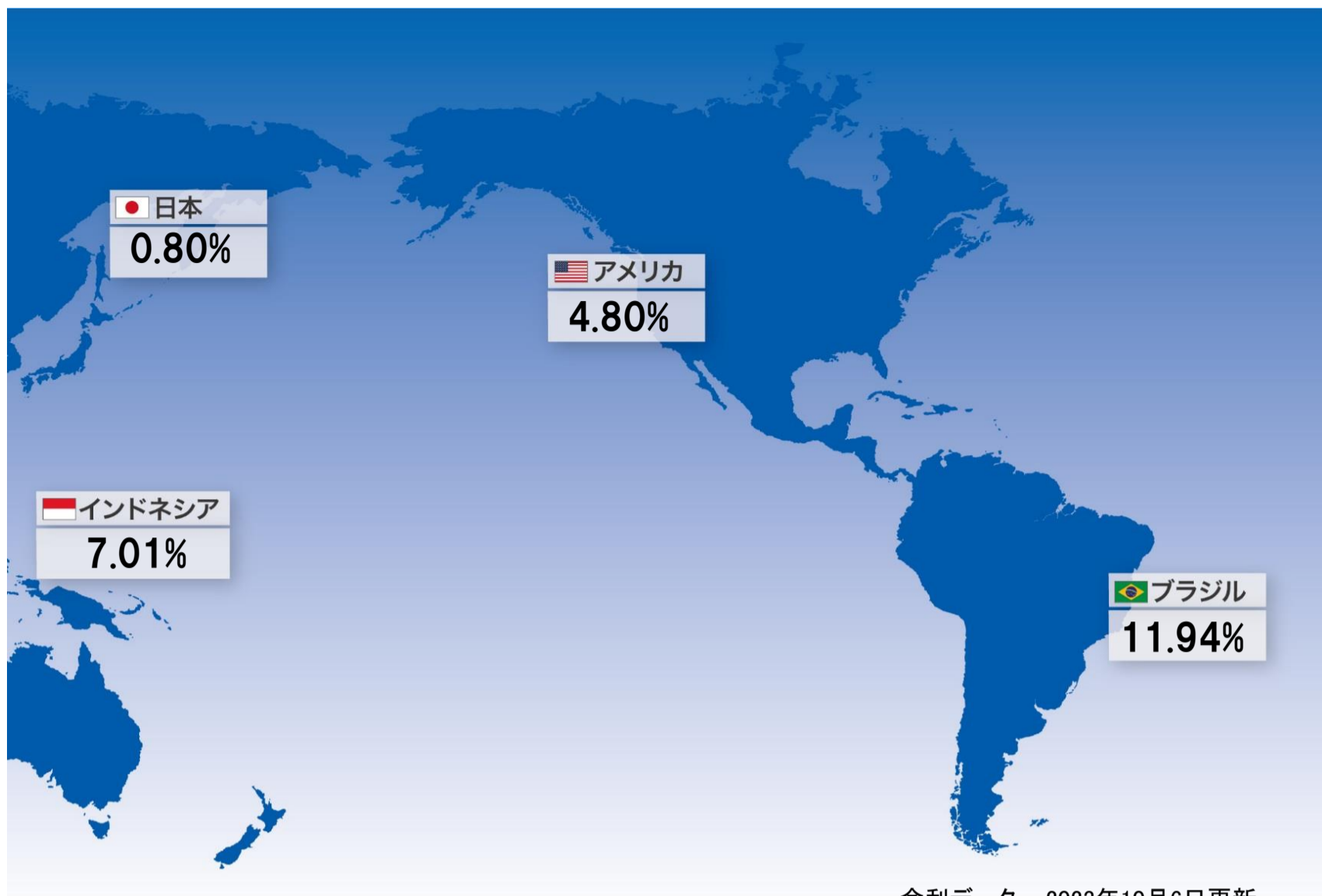
2023年10月9日

【ロンドン時事】スウェーデン王立科学アカデミーは9日、今年のノーベル経済学賞を米ハーバード大のクラウディア・ゴールディン教授に授与すると発表した。労働市場における男女格差に関する研究が評価された。女性の経済学賞受賞は3人目で、単独での受賞は初となる。日本人がすべてのノーベル賞を逃すのは2年連続。ゴールディン氏は、200年分以上の労働に関するデータを収集し、男女間の収入や雇用率の格差の変化を分析。女性の労働参加は、19世紀初めの農業社会から工業社会への移行に伴い減少する一方、20世紀以降はサービス業の成長とともに増加するなど「U字型」で変化したことを解明した。このほか、女性のキャリア形成に避妊ピルが重要な役割を果たしたことや、歴史的に教育や職業選択の違いによって説明できた男女間の賃金格差が、現代では同じ職業でも存在し、そのほとんどが第1子の誕生によって生じることも明らかにした。賞金は1100万スウェーデンクローナ（約1億5000万円）。授賞式は12月10日にストックホルムで開かれる。（C）時事通信社

鈴木総務相、「ネットの分断」に危機感 = A Iルールに幅広い意見—国連デジタル会議

2023年10月9日

鈴木淳司総務相は9日の国連の「インターネット・ガバナンス・フォーラム（IGF）」で、先進7カ国（G7）が「広島A Iプロセス」として年内策定を目指す生成A I（人工知能）の国際的なルールに幅広い意見を取り入れる方針を表明した。国際機関やG7以外の新興・途上国、A I開発企業、研究者、市民社会の声を反映させる。背景には社会を脅かす「ネットの分断」に対する強い危機感がある。インターネットの世界では、ロシアや中国が国家による統制を強める。ロシアは利用制限や偽情報の流布、中国は検閲や世論操作を行っているとの指摘がある。これに対し、日米欧は「自由で開かれたインターネット」の維持を掲げる。鈴木氏は9日の会議後、記者団に対して「インターネットは民主主義社会の基盤だが、分断の動きも見られる」と指摘。IGFで「『自由で分断のないインターネット』を維持し、発展させることにわが国の強い関与を示したことは大きな意義がある」と語った。9日のIGF特別会合で、鈴木氏はインドネシアの通信情報副大臣や「日本のインターネットの父」と呼ばれる村井純慶大教授ら参加者の意見を聴いた。同日にかけてA Iを開発する米Googleとメタ（旧フェイスブック）の幹部とも会場で面会した。今回の会議を「1回目の機会」（総務省幹部）として今後も意見の聞き取りを行う方針。学術団体や業界団体による提言も参考にし、幅広い利害関係者の意見を反映させる。信頼される透明性の高いルール作りにつなげたい考えだ。（C）時事通信社



金利データ：2023年10月6日更新
 ニュース提供：時事通信社

ホタテ、欧州拡販へ＝中国禁輸で本腰

2023年10月8日

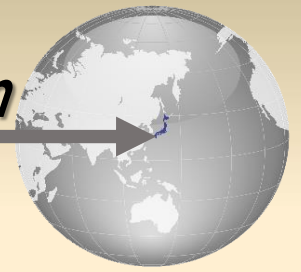
【ケルン時事】中国による禁輸で行き場を失ったホタテをはじめとする日本産水産物について、欧州へ販路の転換を目指す取り組みが本格化している。英仏でPR活動が実施されたほか、ドイツではプロ向けの試食会を開催。米国やアジアと比べて輸出実績は少ないものの、農林水産省の担当者は「日本の水産物に対する需要は高まっており、伸びる余地は大きいはずだ」と意気込んでいる。「繊細な味わいだ」「ホテルや高級レストランで使えそう」。独西部ケルンで開かれている欧州最大級の食品見本市「アヌーガ」で7日、現地のミシュラン一つ星レストランのシェフによる北海道産ホタテの創作料理が、バイヤーや食品ジャーナリストらに振る舞われた。日本貿易振興機構（ジェトロ）と農水省が急きょ実施を決めた。北海道の鈴木直道知事はビデオメッセージで「環境に配慮した持続可能な漁業だと認められている。詰まったうまみと肉厚な貝柱の歯ごたえが魅力だ」とアピール。会場では、大分や愛媛のブリ、福島や宮城の日本酒も提供された。中国は東京電力福島第1原発にたまる処理水の海洋放出を理由に、日本産水産物の輸入を全面停止。中国向けの割合が大きかったホタテの打撃は深刻で、8月の対中輸出額は前年同月と比べて71.3%減った。こうした中、欧州では9月以降、ラグビーのワールドカップ・フランス大会の開催地や英ロンドンの日本イベントで、ホタテのPRが開始。

来年4月にはスペインでの水産物見本市で販売促進も予定されている。欧州連合（EU）が原発事故後に導入した日本産品の輸入規制を8月に完全撤廃したことも追い風になりそうだ。一方、ドイツですし店向けに冷凍水産物を扱う事業者は、処理水に対する心配はないとしつつ、「値段が高ければ買われない」と指摘。比較的安価なカナダ産などが競合相手になるとの見方を示した。（C）時事通信社

途上国支援拡大が焦点＝影落とす米議会混乱— IMF世銀年次総会

2023年10月7日

【ワシントン時事】国際通貨基金（IMF）と世界銀行は9～15日、アフリカ北部モロッコのマラケシュで年次総会を開催する。コロナ禍からの回復に遅れ、気候変動や食料不足、過剰債務などの「複合危機」に苦しむ途上国への支援拡大が焦点。ただ、両機関の最大出資国となる米国での議会の混乱により、不可欠な資金拠出が進まない恐れが影を落としている。アフリカ大陸でのIMF・世銀総会開催は50年ぶり。期間中には20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議も行われる。複合危機の渦中にあるのが、低所得国が集中するアフリカだ。9月の国連総会で、アフリカ開発銀行のアデシナ総裁は「アフリカは2030年まで1.2兆ドル（約180兆円）の資金不足に直面している」と訴えた。（後略）（C）時事通信社



消費支出は6カ月連続でのマイナスに

総務省が10月6日に発表した8月の家計調査によると、消費支出は29万3161円と前年同月比2.5%の減少となった。6カ月連続でのマイナスとなる。ただ、市場予想の4.3%減は上回った。食料への支出は2.5%減と物価高が響き11カ月連続でマイナス、とりわけ、魚介類や肉類の落ち込みが目立った。

日経平均は下落、米金利急伸でリスク回避ムード強まる

下落。米つなぎ予算の成立や全国企業短期経済観測調査の改善を背景に買いが先行したが、先行き不透明感から急失速するなど週明けから荒い展開に。米求人件数の上振れで米長期金利が急伸するとリスク回避の動きが広がり、一時30487円まで下落。ただ週後半は米ADP雇用統計が下振れたことで米金利が低下し、目先の安心感から買い戻しが入った。

日経平均、今週は神経質な展開か、米物価指標を見極めへ

神経質な展開か。米雇用統計で雇用者数が上振れたが賃金の伸びが鈍化したことで金利上昇は控えめになった。安心感から連休明けは買い戻しが先行か。ただ安川電機の決算は先高観を強めにくく、今後の決算を前に上値は重くなりそう。米国では物価指数など重要材料が多く、引き続き金利には注意。一方、予想通りインフレ鈍化が確認されればグロース企業の決算好反応が期待される。

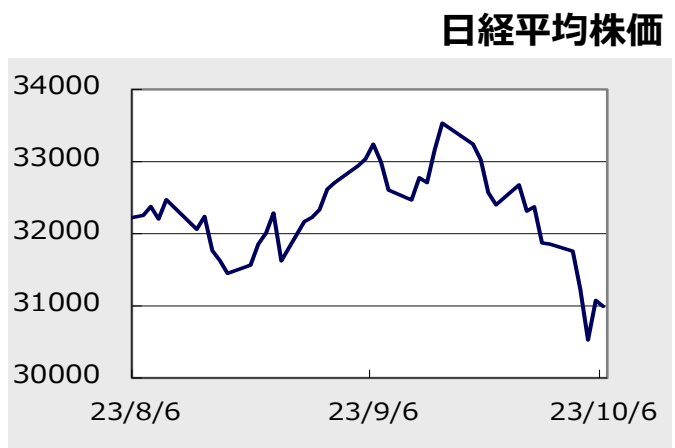
10年債利回りは続伸、日銀による政策修正の思惑などで

利回りは続伸。国内企業の景況感改善が確認され、日本銀行が現行の大規模金融緩和政策の修正に動きやすくなるという思惑が強まる方向となった。そこへ週前半の米国で経済指標の改善が続き、米長期金利が上昇基調を強めた。日本銀行の利回り上昇けん制姿勢が上値を抑えたが、上記材料で日本国債利回りは上昇、週間で続伸。

10年債、今週は利回りは横ばいか、一段の利回り上昇には支援材料不足に

利回りは横ばいか。米国では9月の消費者物価指数と生産者物価指数でコアベースのインフレ率の低下基調が確認され、米長期金利の先高観測に一定の歯止めがかかるだろう。日本国内でも9月企業物価指数でインフレ率の低下基調が確認され、日本銀行による利回り上昇けん制姿勢への警戒感も加わって、利回りは横ばいへ。

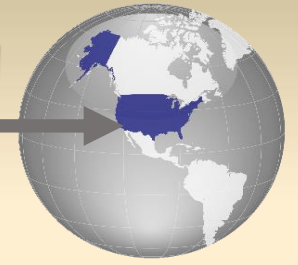
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|---------|-----|----------|
| 10月 12日 | 09月 | 国内企業物価指数 |
| 10月 12日 | 08月 | コア機械受注 |



| | |
|----------|-----------------|
| 日経平均週末終値 | 30994.67 円 |
| 想定レンジ | 30500 ~ 31800 円 |



| | |
|-----------|-----------------|
| 10年国債週末終値 | 0.80 % |
| 想定レンジ | 0.790 ~ 0.813 % |



雇用者数は市場予想を大幅に上振れ

米労働省が10月6日に公表した9月の雇用統計では、非農業部門雇用者数は前月から33万6000人増加した。市場予想の17万人程度を大幅に上回った。7月、8月数値も上方修正されている。一方、失業率は8月から横ばいの3.8%で、市場予想の3.7%を上振れ、平均時給の伸びも前月と変わらなかった。

米国株はもみ合い、金利上昇嫌気して売りが先行

もみ合い。10年債利回りが2007年来の高水準に達したことなどで、売り先行の展開となる。8月求人件数が予想外に増加して追加利上げ懸念が高まると続落。マッカーシー下院議長の解任なども政局混乱懸念につながった。一方、週末の雇用統計は想定外に強い雇用の伸びとなったが、賃金の伸びが予想外に鈍化し、金利も伸び悩んだことで、押し目買い要因とされた。

米国株、今週はもみ合いを予想、長期金利の動向に一喜一憂へ

もみ合いを予想。引き続き、長期金利の動向に一喜一憂する展開が想定され、方向感を生じにくいとみられる。今週は、連邦公開市場委員会（FOMC）議事録が発表されるほか、消費者物価指数（CPI）の発表もあり、連邦準備制度理事会（FRB）の政策スタンスを占うことになる。また、国債入札なども予定されており、金利の動向に影響を与えよう。

10年債利回りは上昇、雇用拡大を意識した相場展開に

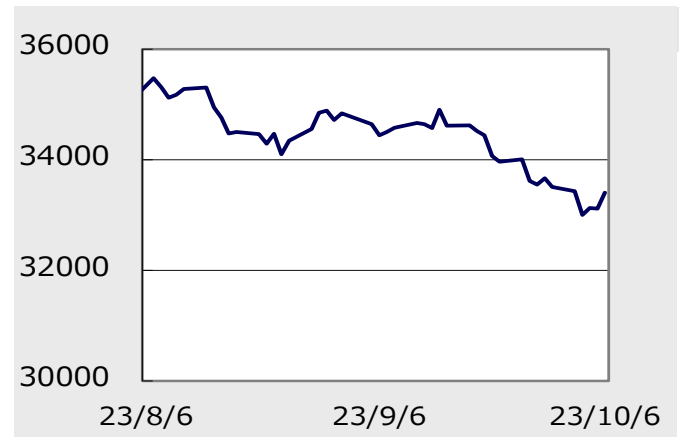
利回りは上昇。米政府機関の一部閉鎖は回避され、先週発表された複数の雇用関連指標は市場予想を上回っており、原油安となったものの、インフレ緩和期待は後退したことが要因。年内利上げの確率が大幅に上昇したわけではないが、利下げ時期が早まる可能性は低下し、主に10年以降の債券利回りの上昇が目立った。

10年債、利回りは強含みか、9月消費者物価指数が手掛かり材料に

利回りは強含みか。原油先物の動向は無視できないが、10月12日発表の9月消費者物価指数（CPI）の数値が有力な手掛かり材料となりそうだ。市場予想と一致、または上回った場合、インフレ緩和期待は大幅に後退し、安全逃避的な債券買いは縮小する可能性がある。

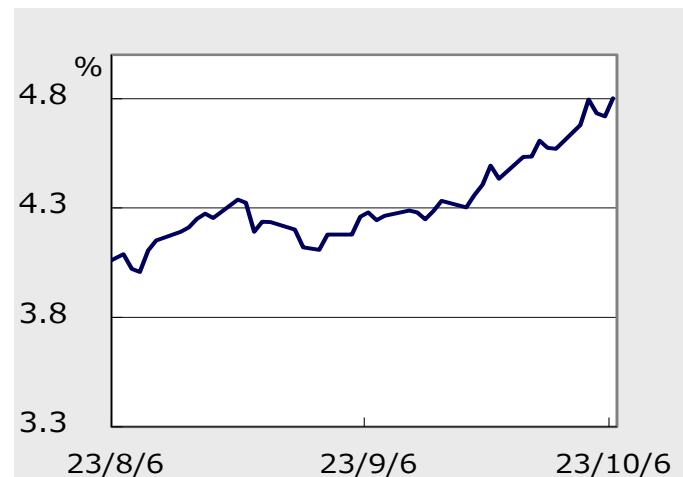
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|---------|-----|--------------|
| 10月 11日 | 09月 | 生産者物価コア指数 |
| 10月 12日 | 09月 | 消費者物価コア指数 |
| 10月 12日 | 前週 | 新規失業保険申請件数 |
| 10月 13日 | 10月 | UM消費者信頼感指数速報 |
| 10月 16日 | 10月 | NY連銀製造業景気指数 |
| 10月 17日 | 09月 | 小売売上高 |
| 10月 17日 | 09月 | 鉱工業生産指数 |
| 10月 17日 | 10月 | NAHB住宅市場指数 |
| 10月 17日 | 08月 | 対米証券投資 |

NYダウ平均

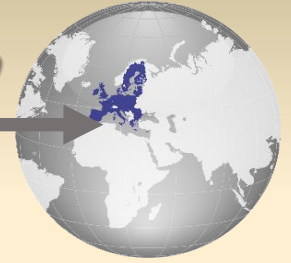


| | | |
|----------|----------|-------|
| NYダウ週末終値 | 33407.58 | ドル |
| 想定レンジ | 33100 ~ | 33700 |
| | | ドル |

10年債利回り



| | | |
|-----------|--------|------|
| 10年国債週末終値 | 4.80 | % |
| 想定レンジ | 4.65 ~ | 5.00 |
| | | % |



ユーロ圏失業率は想定通りの低下に

10月2日に欧州委員会統計局は8月のユーロ圏の失業率を公表。失業率は6.4%で市場予想と一致し、前月の6.5%からは低下した。失業者は1085.6万人となり、前月の1096.3万人から10.7万人の減少となっている。なお、8月数値は統計データ公表以来の最低値となっている。

ユーロ円は下げ渋り、リスク選好的な円売りは縮小

下げ渋り。米ドル高・円安の進行に連れて、ユーロ・円の取引でもユーロ買い・円売りが一時優勢となった。しかし、1ドル=150円突破で日本政府・日銀による円安是正介入への警戒感や、介入実施観測も浮上したことで円の買い戻しが急速に広がり、リスク選好的なユーロ買い・円売りの取引は縮小した。

ユーロ円、もみ合いか、ドル・円にらみの相場展開に

もみ合いか。米金利上昇にともなうドル高・円安の進行に連れて、ユーロ・円の取引でも円売りが観測された。しかし、1ドル=150円超え後は日本政府・日本銀行による円安是正介入が実施される可能性があるため、新たなユーロ買い材料が提供されない場合、ユーロ・円は主に158円を挟んだ水準で推移か。

ドイツ市場

10年債利回りは上昇、11年7月以来の3%超えに

利回りは上昇。高水準の米経済指標を受けて、週初から利回りは上昇して始まる。利下げに対する否定的な当局者発言なども利回り上昇要因となり、2011年7月以降で初めて3%を一時上回った。週後半にかけてはやや伸び悩み、米雇用統計を受けて一時は利回り上昇も次第に伸び悩んだ。

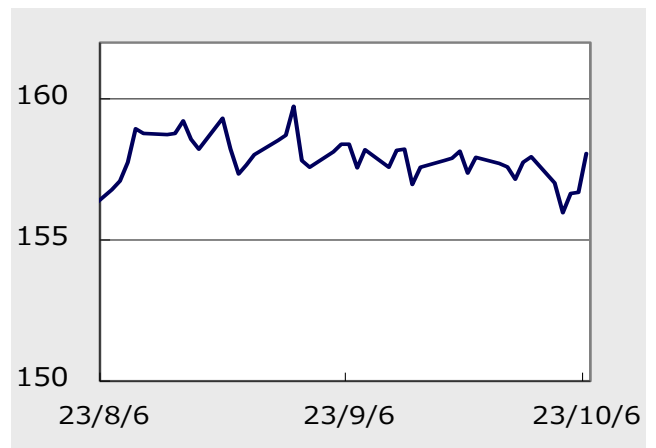
10年債、今週は利回りは横ばいか、3%台乗せでの達成感も

利回りは横ばいか。利回り3%台乗せでの達成感などもあり、目先的に一段の上昇余地は限定的になっていくとみられる。焦点となるのは米国債利回りの動向だろう。連邦公開市場委員会（FOMC）議事録や消費者物価指数（CPI）の発表などもあって、米国債利回りは変動率の高い展開となりそうだ。

経済指標発表予定

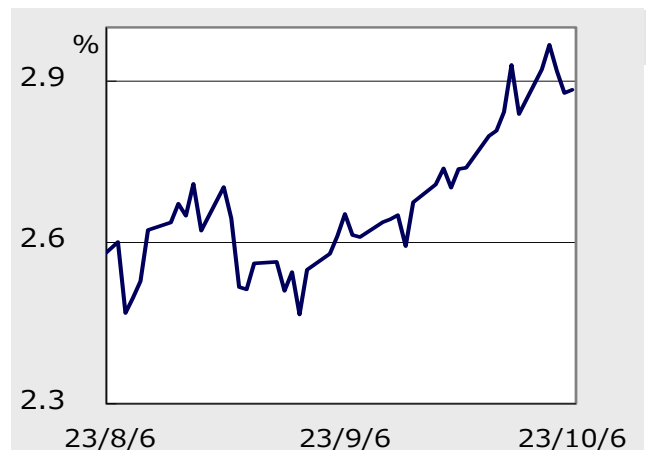
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|---------|-----|----------------|
| 10月 12日 | 08月 | 英・鉱工業生産指数 |
| 10月 12日 | 08月 | 英・商品貿易収支 |
| 10月 13日 | 08月 | 欧・鉱工業生産指数 |
| 10月 17日 | 10月 | 欧独・ZEW期待指数 |
| 10月 17日 | 09月 | 英・失業保険申請件数/失業率 |
| 10月 17日 | 08月 | 英・失業率(ILO方式) |

ユーロ円



| | |
|----------|-------------------|
| ユーロ円週末終値 | 158.07 円 |
| 想定レンジ | 156.00 ~ 159.50 円 |

ドイツ10年債利回り



| | |
|-----------|---------------|
| 10年国債週末終値 | 2.88 % |
| 想定レンジ | 2.65 ~ 3.10 % |

ドル円 為替展望

ドル/円 今週の想定レンジ

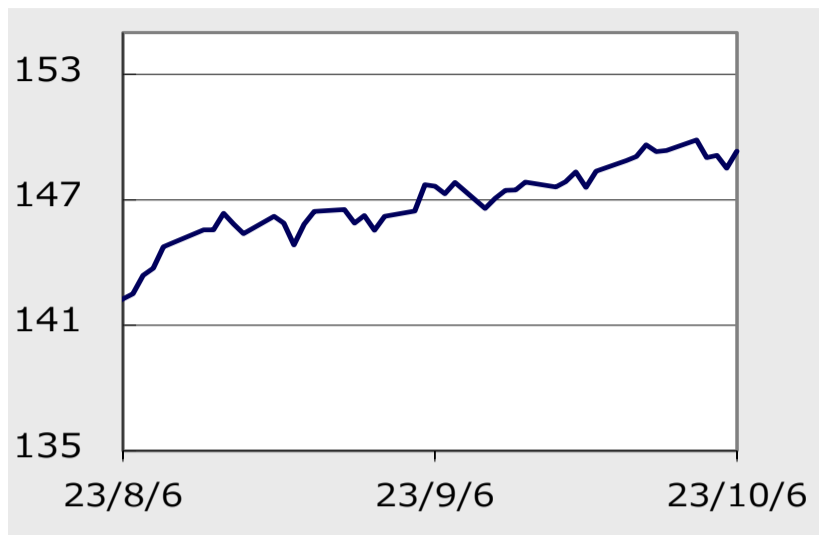
147.00 ~ 151.00 円

今週のドル・円は伸び悩みか

今週のドル・円は伸び悩みか。日米金利差拡大が予想されているものの、米インフレ率の鈍化や日本の為替介入の可能性は残されているため、リスク選好的なドル買い・円売りがただちに拡大する可能性は低いとみられる。10月31日-11月1日に開催される次回連邦公開市場委員会（FOMC）に向け、米連邦準備制度理事会（FRB）のメンバーからインフレ抑止に前向きな見解が相次いでいる。市場は年内あと1回の利上げを予想し、長期金利は騰勢を保っている。

一方、日本銀行による緩和政策修正の思惑は後退し、将来的なマイナス金利解除の可能性は消えていないものの、米ドルを含めた主要通貨に対する円売りが続いている。ただ、今週発表の米インフレ指標は伸びの鈍化が予想されている。9月消費者物価指数（CPI）はコア指数を含め前を下回り、ミシガン大学消費者信頼感指数・期待インフレ率も弱い内容なら金利高・ドル高は抑制されよう。

10月3日の海外市場でドル・円は一時150円を上抜けたが、その直後の円急伸で一時大きく下げた。為替介入は行われていないもようだが、リスク選好的なドル買いには慎重になりやすいだろう。



ドル円週末終値 149.32 円

【米・9月消費者物価指数(CPI)】(12日発表予定)

12日発表の9月消費者物価指数(CPI)は前年比+3.6%、コア指数は同+4.1%とインフレ率は鈍化の見通し。市場予想と一致または下回った場合、インフレ沈静化の思惑からドル買いを弱める材料となろう。

商品マーケット (金・原油)



NY
金先物

週末終値
1,845.20ドル

軟調、米長期金利上昇やドル高で

軟調。米長期金利の上昇やドル高を受けて週初から売りが先行。米連邦準備制度理事会（FRB）が高金利政策を長期化させるとの見方から、週中にかけても売り優勢の地合いが続く。ただ、週末には、米雇用統計発表後の長期金利伸び悩みを受けて、10日ぶりに反発する展開となっている。



NY
原油先物

週末終値
82.79ドル

大幅安、世界的な原油需給逼迫の懸念が急速に和らぎ始める

大幅安。米経済指標の改善傾向で米金融引締め長期化観測が強まり、世界の経済減速と原油需要減少に警戒感が強まる方向に。そこへロシア政府が燃料輸出の禁止措置を緩和すると報じられ、米国でも季節的な需要減少で週間のガソリン在庫が市場予想を上回る増加となった。世界の原油需給逼迫懸念が急速に和らぎ、相場は大幅安。



製造業PMI、官民データでまちまち

9月の製造業購買担当者景気指数（PMI）では、政府と民間統計がそれぞれ50.2、50.6となった。政府版は前月の49.7と予想の50.1を上回ったものの、民間統計は前月の50.1と予想の51.2を下回った。景気の先行き不安が解消されていないなか、当局は景気支援スタンスを継続すると予測されている。

人民元は休場、先週は国慶節の祝日で週を通して休場
休場。先週は国慶節の大型連休で週を通して休場だった。

人民元今週は強含みか、対円でのリスク通貨買いが人民元に入るとみる

強含みか。中国の9月の経済指標で中国経済の緩やかな立ち直り傾向が確認されるだろう。そこへ米国の9月物価統計でコアベースのインフレ率低下基調が確認され、米長期金利の先高観測が和らいで世界の株式市場が底堅さを増す方向になるとみる。為替市場では対円で人民元をリスク通貨として買う動きが優勢となり、強含みへ。

上海総合指数は国慶節大型連休で休場

この週は国慶節（建国記念日）の大型連休で休場となった。

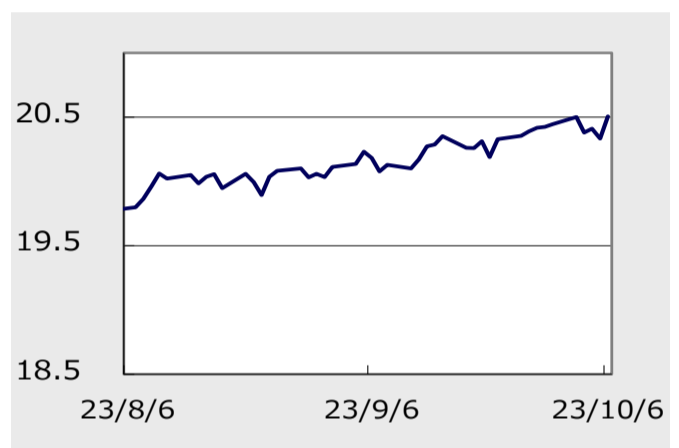
香港市場

ハンセン市場は強含みか、米ソフトランディングへの期待や値ごろ感で

強含みか。米国のソフトランディングへの期待が再び高まっていることが指数をサポートする見通しだ。また、ハンセン指数が年初来の安値水準まで下落しており、値ごろ感から買い戻しが優勢も。ほかに、中国の成長予想の上方修正などが引き続き支援材料となろう。一方、海外市場が不安定な値動きを示した場合、香港株も連れ安の可能性も。

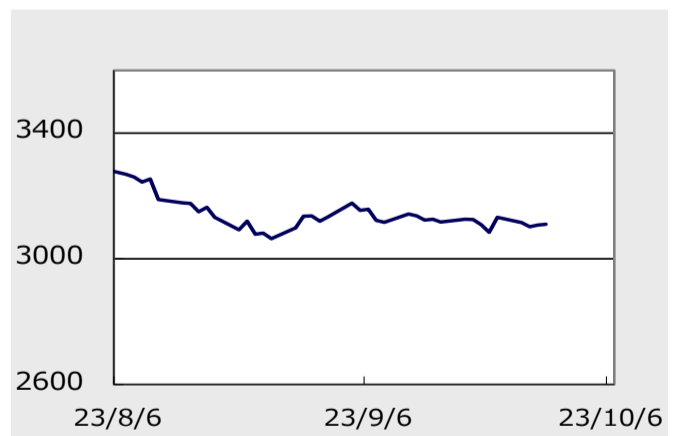
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|-----------|-----|-------------------|
| 10月 9-15日 | 09月 | マネーサプライM0, M1, M2 |
| 10月 9-15日 | 09月 | 新規人民元建て融資 |
| 10月 9-15日 | 09月 | 資金調達総額 |
| 10月 13日 | 09月 | 消費者物価指数(CPI) |
| 10月 13日 | 09月 | 生産者物価指数(PPI) |
| 10月 13日 | 09月 | 貿易収支 |

人民元円



| | |
|----------|-----------------|
| 人民元円週末終値 | 20.45 円 |
| 想定レンジ | 20.49 ~ 20.75 円 |

上海総合指数



| | |
|------------|----------------|
| 上海総合指数先週終値 | 3110.48 Pt |
| 想定レンジ | 3090 ~ 3130 Pt |



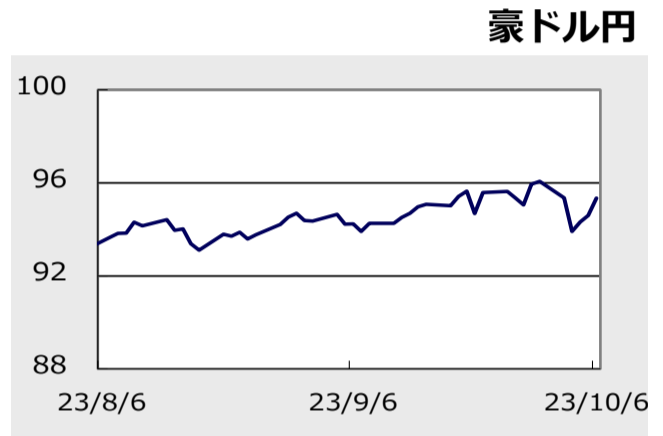
政策金利の据え置きを発表

豪準備銀行（中央銀行）は10月3日の理事会で、政策金利を年4.1%に据え置くと発表している。金利の据え置きは7月会合以来、4会合連続となる。「これまでの利上げの影響や今後の経済見通しを見極める時間を確保するため」と説明されている。市場でも今回政策金利は据え置きを予想する声が多かった。

| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|---------|----|-----------------------|
| 10月 17日 | | 豪準備銀行 金融政策会合議事要旨公表 |

豪ドル円はもみ合い、米長期金利上昇で伸び悩む

もみ合い。週初は豪ドル買いが先行したものの、豪準備銀行（中央銀行）が予想通り政策金利を据え置きとし、追加利上げ観測が後退したことから、その後は伸び悩んだ。米長期金利の上昇が意識されて、リスク選好的な豪ドル買い・円売りが拡大しなかったことなども伸び悩みの要因に。



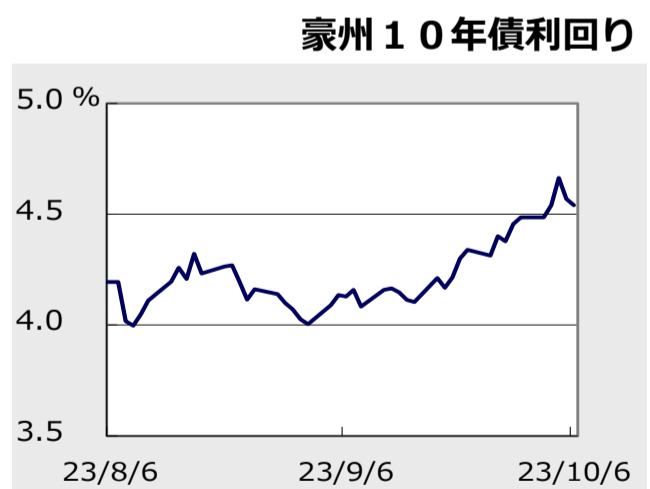
| | |
|----------|-----------------|
| 豪ドル円週末終値 | 95.34 円 |
| 想定レンジ | 94.00 ~ 96.50 円 |

豪ドル、今週はもみ合いか、利上げ再開観測は一段と後退

もみ合いか。豪準備銀行（中央銀行）はこれまでの利上げの効果を見極めたいとの姿勢を維持し、利上げ再開に関する市場の見方は一段と後退している。米長期金利が大きく低下しない限りは、リスク選好的な豪ドル買い・円売りがただちに拡大する可能性は低いとみられる。

10年債利回りは続伸、米長期金利上昇と国内利上げ観測が支援材料

利回りは続伸。週前半の米国で経済指標の改善が続き、米長期金利が上昇した。そこへ、豪準備銀行（中央銀行）のブロック新総裁がインフレ率を合理的な期間内に目標レンジに収めるうえで追加利上げの必要性に言及したため、豪国内で利上げ観測が強まる方向となった。これらの材料で豪国債利回りは週間で上昇した。



| | |
|-----------|-----------------|
| 10年国債週末終値 | 4.54 % |
| 想定レンジ | 4.500 ~ 4.580 % |

10年債、今週は利回りは横ばいか、米長期金利の先高観測に一定の歯止め

利回りは横ばいか。先週末に米国の9月雇用統計を受けて米長期金利が上昇したため、今週初の豪国債利回りは上昇して始まるだろう。しかし、米国の9月の物価指標でコアベースのインフレ率の低下基調が確認され、米長期金利の先高観測に一定の歯止めがかかる。これで豪国債利回りは週後半に反落、週間で横ばいへ。



ブラジル概況

Brazil



貿易黒字は9月としては過去最大に

2023年9月の貿易収支は89億ドルの黒字となり9月としては過去最大を記録した。原油、大豆、鉄鉱石、トウモロコシなどの輸出数量が拡大した。9月の貿易収支は、輸出が284億ドル、輸入が195億ドルだった。なお今年1から9月の貿易収支は713億ドルとなった。

レアル円は続落、株安や経済指標の悪化などで

続落。株式市場の下落や経済指標の悪化が足かせとなった。9月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）とサービス業PMIはそろって好不況の節目となる50を下回った。また、レアルの対米ドルの下落も対円レートを押し下げた。一方、週後半の米長期金利の低下などが支援材料となった。

レアル円、今週は強含みか、米ソフトランディングへの期待などで

強含みか。米国のソフトランディングへの期待が再び高まっていることがレアルなど新興国通貨の支援材料となろう。また、最近の下落で値ごろ感が強まり、買い戻しが広がる公算も。一方、経済指標の下振れが引き続き嫌気されよう。また、円高が進行した場合、対円レートは続落も。

ボベスパ指数反落、海外株安や経済指標の悪化などで

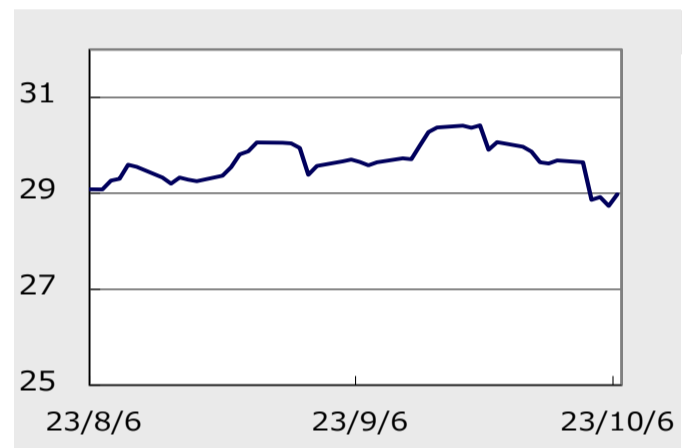
反落。海外株安が投資家の不安心理を強めた。また、経済指標の悪化も足かせとなった。9月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）とサービス業PMIはそろって前月から悪化し、ともに好不況の節目となる50を下回った。ほかに、通貨レアル安の進行がブラジル株の圧迫材料。一方、週後半の米長期金利の低下などが指数を下支えした。

ボベスパ指数、今週は強含みか、米ソフトランディングへの期待などが支援材料へ

強含みか。米国のソフトランディングへの期待が再び高まっていることが支援材料となろう。また、米長期金利に落ち着きが見られた場合、外資の流出懸念も後退する可能性がある。一方、原油価格が続落した場合、資源の一角に売りが広がる見通しだ。また、海外市場が不安定な値動きを示した場合、ブラジル株も売られる公算も。

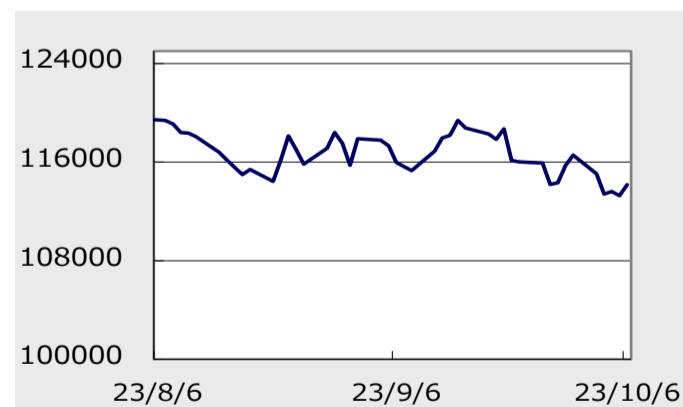
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|---------|-----|---------------|
| 10月 11日 | 09月 | IBGEインフレ率IPCA |

レアル円

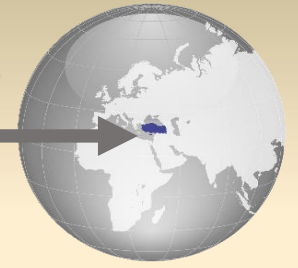


| | |
|----------|-----------------|
| レアル円週末終値 | 28.98 円 |
| 想定レンジ | 28.18 ~ 29.78 円 |

ボベスパ指数



| | |
|------------|--------------------|
| ボベスパ指数先週終値 | 114169.63 Pt |
| 想定レンジ | 110870 ~ 117500 Pt |



弱含み、引き続き米長期金利の上昇を警戒

弱含み。米長期金利の上昇を警戒してリスク選好的なリラ買い・円売りは縮小。トルコ中央銀行による追加利上げの可能性は消えていないが、過度な金利上昇は国内経済を圧迫するとの見方は変わっていないため、一部でリスク回避のリラ売り・円買いが観測された。

トルコリラ、今週はもみ合いか、米長期金利や原油価格の動向が手掛かり材料に

もみ合いか。米長期金利と原油先物の動向を意識した取引が主体となりそうだ。原油先物は大幅安となったが、米長期金利の高止まりは続いているため、リスク選好的なリラ買い・米ドル売りがただちに強まる状況ではないとみられる。米ドル・円相場に大きな動きがない場合、リラは対円でもみ合いが続く可能性がある。

10年債利回りは低下、原油安を意識した相場展開に

利回りは低下。需要減少の思惑などで原油先物は大幅安となったことが要因。原油価格の大幅な低下は足元の物価動向に影響を及ぼすため、年末にかけてインフレ率の低下が想定される。大幅利上げによる国内経済の減速懸念も残されており、債券利回りの上昇は全般的に抑制をされた。

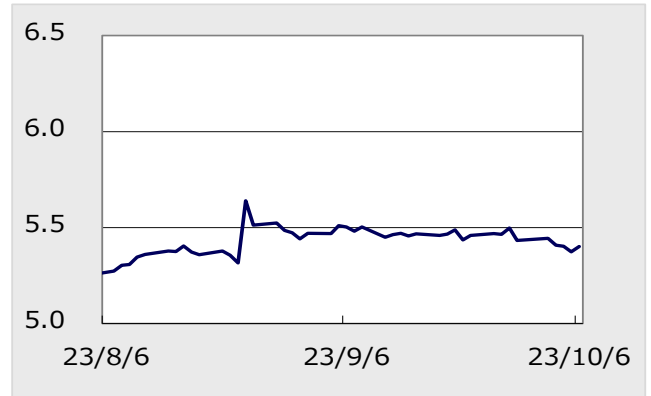
10年債利回りは続落か、原油安継続の可能性残る

利回りは続落か。引き続き原油先物の動向を意識した取引が主体となりそうだ。10月6日の取引でNY原油先物は小幅高となったが、大幅安後の自律反発との見方が多い。原油需要減少の見方は特に変わっていないため、原油先物の先高観は後退しており、物価全般に影響を及ぼすことから、債券利回りは続落の可能性はある。

ハマス、中東諸国と協議 = イスラエル人らの「人質」巡り

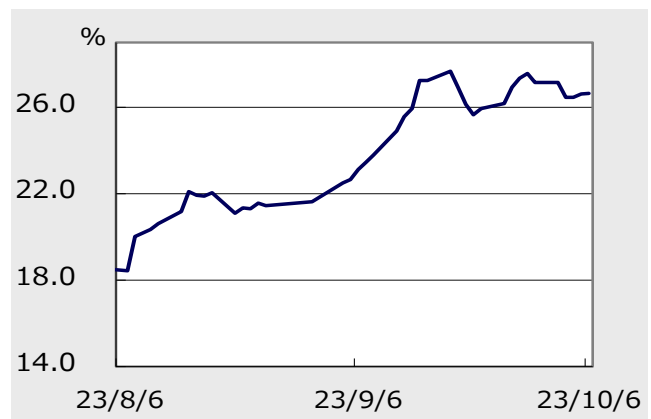
【カイロ時事】パレスチナ自治区ガザを実効支配するイスラム組織ハマスの高官は9日、時事通信の取材に、イスラエルとの戦闘を巡り、中東諸国と「連絡を取り合っている」と述べた。ハマスがイスラエル側で拉致し、ガザに連れ去った人質の処遇についても協議しているという。高官は「ハマスは現在、エジプトとカタール、トルコと連絡を取り合っている」と説明。ハマス側は、イスラエルで捕らわれている囚人と人質の交換に加え、「イスラエルのパレスチナ占領などを終わらせる包括的な解決を求めている」と語った。(C)時事通信社

トルコリラ円



| | |
|------------|---------------|
| トルコリラ円週末終値 | 5.40 円 |
| 想定レンジ | 5.30 ~ 5.50 円 |

トルコ10年債



| | |
|-------------|-----------------|
| トルコ10年債先週終値 | 26.64 % |
| 想定レンジ | 25.00 ~ 27.50 % |



ロシア概況

Russia



続落、原油の大幅下落などを嫌気

続落。原油価格の大幅下落が嫌気され、資源輸出大国の通貨ルーブルに売り圧力が強まった。また、ルーブルの対米ドルの下落や円高進行なども対円レートを押し下げた。一方、成長予想の上方修正が支援材料。また、経済指標の改善なども好感された。

ルーブル円、今週は神経質な展開か、原油相場や貿易収支などに注目

この週は8月の貿易収支などが発表される予定となり、神経質な展開になると予測される。また、原油相場などにも注目する必要がある。原油安が一段と進行した場合、ルーブルに売り圧力が強まる公算も。一方、米ソフトランディングへの期待が再び高まっていることがルーブルなど新興国通貨の支援材料となろう。

MOEXロシア指数、強含み、経済指標の改善などが支援材料

強含み。経済指標の改善が支援材料となった。9月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）は54.5となり、前月の52.7を上回った。また、成長予想の上方修正も支援材料となった。一方、指数の上値は重い。原油価格の大幅下落が資源セクターの売り手掛かりとなった。また、海外株安も投資家の不安心理を強めた。

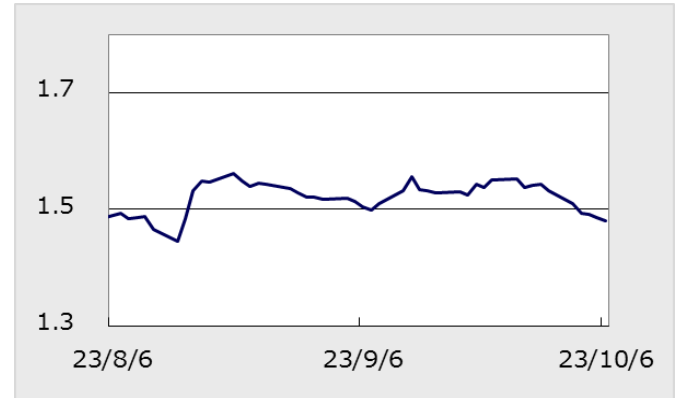
MOEXロシア指数、慎重ムードか、貿易収支などに注目

この週は8月の貿易収支などが発表される予定となり、慎重ムードが強まろう。また、原油価格が続落した場合、資源の一角に売りは継続も。一方、米ソフトランディングへの期待が再び高まっていることが外資の流出懸念を後退させよう。また、企業の配当に対する期待の高まりも対象セクターの物色手掛かりとなる見通しだ。

中国の車輸出拡大は短期的 = 欧州勢のロシア撤退効果、長続きせずー北京汽車幹部

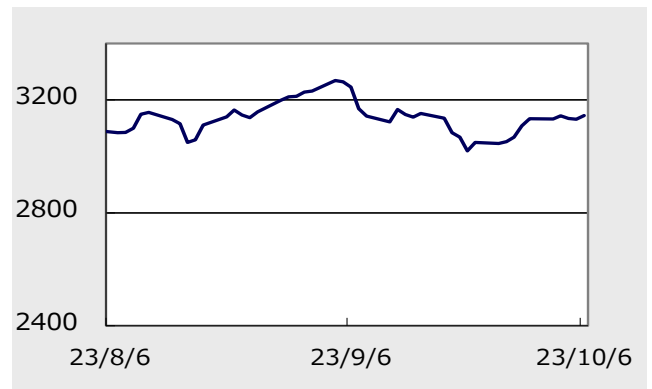
中国国有自動車製造大手の北京汽車集団（北汽集団、北京市）の鞏月瓊・副総経理は、天津市で開かれた自動車輸出に関するフォーラムで講演し、中国製自動車の輸出拡大が短期的なものにとどまるとの厳しい見方を示した。中国の情報サイト、鳳凰網などが伝えた。業界団体の中国汽车工業協会によれば、中国車の2023年1～6月期の輸出台数は、前年同期比76.9%増の234万1000台。中国車の輸出台数は昨年にドイツを抜き、今年1～6月には日本も上回った。北汽集団の鞏氏によれば、中国車の輸出先はロシアが33%、欧州が28.28%。うちロシアは、欧州勢の撤退による穴を埋めるように中国勢が進出したもので、このような状況は最長であと2年半から3年しか続かない可能性が高い。欧州では、中国製のシェアはまだ小さいのに、既に警戒感が高まっている。このまま欧州が手をこまねていることはあり得ないという。同じフォーラムで、重慶長安汽車（重慶市）の王輝副総裁も、昨年と今年の中国車の輸入急増は例外的だとの見方を示している。（時事）（C）時事通信社

ルーブル円



| | |
|--------------|---------------|
| ロシアルーブル円週末終値 | 1.48 円 |
| 想定レンジ | 1.44 ~ 1.52 円 |

MOEXロシア指数



| | |
|---------------|----------------|
| MOEXロシア指数先週終値 | 3144.89 Pt |
| 想定レンジ | 3120 ~ 3165 Pt |



9月の製造業PMIは57.5、先月を下回る

9月のS&Pグローバル製造業購買担当者景気指数（PMI）は57.5となり、前月の58.6を下回ったほか、5カ月ぶりの低水準を記録した。一方、サービス業PMIは前月の60.1から61.0に上昇。また、国連貿易開発会議は2023年のインドの成長予想をこれまでの6.0%から6.6%まで引き上げた。

インドルピー円は弱含み、インド準備銀行は政策金利の据え置き決定

弱含み。インド準備銀行（中央銀行）は10月6日、政策金利の据え置きを決定し、リスク選好的なルピー買い・米ドル売りは縮小したことが要因。米長期金利が強い動きを見せたことも意識されたようだ。米ドル・円相場に大きな動きはなかったが、ルピー買い・米ドル売り縮小で対円レートはさえない動きとなった。

インドルピー円、今週はもみ合いか、米長期金利の動向が手掛かり材料に

もみ合いか。目先のには米長期金利の動向を意識した取引が主体となりそうだ。米国の年内利上げの可能性は消えていないため、リスク選好的な米ドル買い・ルピー売りが大幅に縮小する可能性は低いと予想される。この状況が変わらない場合、ルピーの対円レートは1.79円近辺を挟んだ水準で推移すると予想される。

SENSEX指数強含み、成長予想の上方修正などを好感

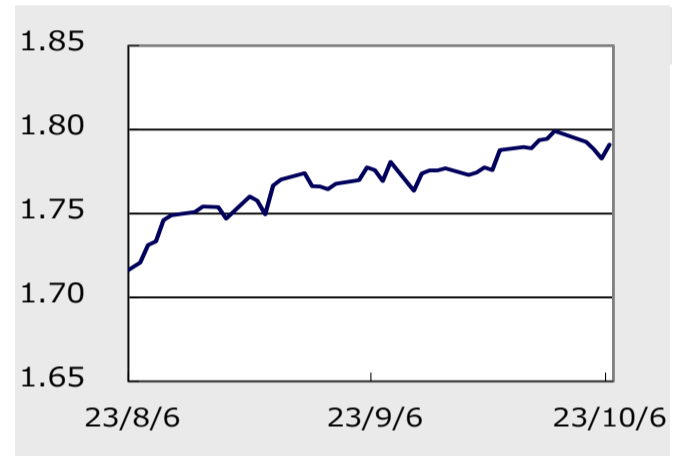
強含み。成長予想の上方修正が好感された。2023年のインドの成長予想はこれまでの6.0%から6.6%まで引き上げられた。また、米長期金利の低下なども外資の流出懸念が後退させた。一方、指数の上値は重い。外国人投資家（FII）の売り越しが指数の足かせとなった。また、弱含みの経済指標も景気不安をやや強めた。

SENSEX指数、今週は神経質な展開か、鉱工業生産などに注目

この週は8月の鉱工業生産などが発表される予定となり、神経質な展開になると予測される。強弱材料では、米ソフトランディングへの期待が再び高まっていることが外資の流出懸念が後退させよう。また、景気対策への期待なども引き続き支援材料へ。一方、通貨ルピー安が一段と進行した場合、インド株に売り圧力が強まる可能性がある。

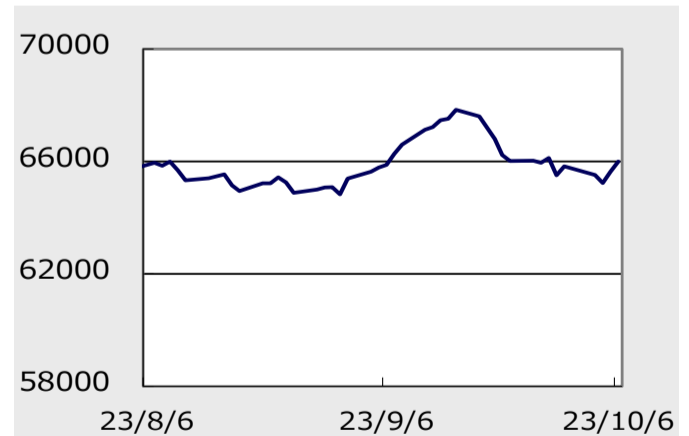
| 発表日 | 期間 | 指標名 |
|------------|-----|--------------|
| 10月 12日 | 08月 | 鉱工業生産 |
| 10月 12日 | 09月 | 消費者物価指数(CPI) |
| 10月 13-16日 | 09月 | 貿易収支 |

インドルピー円



| | |
|-------------|-----------------|
| インドルピー円週末終値 | 1.791 円 |
| 想定レンジ | 1.775 ~ 1.805 円 |

SENSEX指数



| | |
|--------------|------------------|
| SENSEX指数先週終値 | 65995.63 Pt |
| 想定レンジ | 65750 ~ 66250 Pt |

日本株 注目スクリーニング

中間期決算発表控えて好業績期待銘柄の買い戻しに注目

■6-8月期の決算発表は今週でほぼ一巡へ

6-8月期の決算発表は今週でほぼ一巡、今月下旬以降は7-9月期の決算発表が本格化してくる。中間期業績修正の発表も増える局面であり、あらためて好決算期待銘柄に関心を高めたいところ。第1四半期の利益進捗率が高く、決算発表を境に株価も堅調な推移を辿っている銘柄などは業績上振れ期待が高い銘柄とみられ、なかでも、信用需給妙味がある銘柄は、目先の買い戻しの動きなども期待できよう。

スクリーニング要件としては、①3月期本決算、②第1四半期営業利益の進捗率が30%以上、③7月7日終値比での株価騰落率がプラス、④信用倍率1倍未満、⑤信用売残が5万株以上。

■決算発表前のショートカバー期待銘柄

| コード | 銘柄 | 市場 | 10/6株価 (円) | 時価総額 (億円) | 営業益進捗 率(%) | 株価騰落率 (%) | 信用倍率 (倍) | 予想 1株利益 (円) |
|------|-----------|------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------------|-------------------|
| 2804 | ブルドックソース | プライム | 2,059.0 | 287.3 | 90.5 | 6.08 | 0.08 | 3.75 |
| 3397 | トリドールHD | プライム | 3,600.0 | 3,161.8 | 58.9 | 13.03 | 0.81 | 25.43 |
| 3865 | 北越コーポ | プライム | 1,002.0 | 1,884.3 | 65.2 | 21.45 | 0.51 | 53.55 |
| 4091 | 日本酸素HD | プライム | 3,513.0 | 15,214.6 | 31.9 | 13.95 | 0.52 | 162.87 |
| 4553 | 東和薬品 | プライム | 2,793.0 | 1,438.8 | 34.7 | 60.79 | 0.61 | 140.18 |
| 4665 | ダスキン | プライム | 3,334.0 | 1,700.2 | 44.9 | 4.12 | 0.35 | 90.72 |
| 4887 | サイグループHD | プライム | 4,458.0 | 1,952.2 | 30.5 | 22.34 | 0.46 | 257.97 |
| 6448 | ブラザー工業 | プライム | 2,387.5 | 6,260.5 | 31.5 | 18.84 | 0.43 | 195.32 |
| 8136 | サンリオ | プライム | 6,873.0 | 6,121.4 | 35.1 | 10.66 | 0.94 | 148.81 |
| 8818 | 京阪神ビルディング | プライム | 1,365.0 | 686.7 | 31.1 | 19.42 | 0.40 | 65.34 |
| 9039 | サカイ引越センター | プライム | 2,477.0 | 1,048.4 | 45.3 | 0.59 | 0.10 | 437.67 |
| 9532 | 大阪瓦斯 | プライム | 2,387.0 | 9,946.2 | 52.8 | 11.26 | 0.77 | 279.06 |
| 9900 | サガミHD | プライム | 1,338.0 | 405.4 | 42.1 | 6.70 | 0.13 | 13.26 |

(注) 株価騰落率は7月7日終値比

出所:フィスコアプリより作成

日本株 注目カテゴリー

テーマ別分析：エコートレーディングの上方修正で注目のペットビジネス関連

■手掛ける企業に意外な広がり

ペットビジネス関連テーマに人気化の可能性が膨らんできた。9月29日にペットフード・用品卸大手のエコートレーディング<7427>が業績予想と配当予想の上方修正を発表したことが注目材料となっている。期初に前期比5.8%増の9.08億円としていた連結営業利益を、前期比2.0倍の17.5億円に大幅増額修正し、年間配当金も24円から28円に引き上げた。価格改定効果と高付加価値商材の拡大が上方修正の理由だが、改めてペットビジネスの成長性が注目されることとなりそうだ。

エコートレーディングは時価総額100億円未満のため、別表に記載はないが、ペットビジネスはフード、医薬、トイレタリー、ウエア、保険、専門ショップなどに広がり、手掛ける企業も食品、日用品、医療、ホームセンターなどに広がりを見せている。

このほか、時価総額100億円未満の関連銘柄では、東証グロースのペットビジネス有力企業として、ペットゴー<7140>、日本動物高度医療センター<6039>もある。

■主な「ペットビジネス」関連銘柄

| コード | 銘柄 | 市場 | 10/6終値 | 概要 |
|------|-----------------|--------|--------|------------------------------|
| 1518 | 三井松島ホールディングス | プライム | 2568 | 高級品ペットフード輸入卸企業を2020年4月にグループ化 |
| 2734 | サーラコーポレーション | プライム | 740 | 畜産・ペット用医薬品の販売を展開 |
| 2831 | はごろもフーズ | スタンダード | 3045 | 犬・猫向けペットフードを製造販売 |
| 3546 | アレンザホールディングス | プライム | 1002 | ペットショップを東北・関東・東海・中四国で展開 |
| 4452 | 花王 | プライム | 5505 | 犬猫向けトイレタリーを中心にペット用品を幅広く展開 |
| 4886 | あすか製薬ホールディングス | プライム | 1651 | 動物用医薬品・医療機器の製造販売企業をグループに持つ |
| 4912 | ライオン | プライム | 1427 | 犬猫のペット用品、ペットフードの卸売り販売を展開 |
| 4967 | 小林製薬 | プライム | 6728 | 「ペット用消臭元」を手掛ける |
| 4985 | アース製薬 | プライム | 4920 | 害虫予防、関連グッズ、栄養ドリンクなどの販売子会社持つ |
| 5388 | クニミネ工業 | スタンダード | 1011 | 主力商品「ベントナイト」を利用したペット用トイレ砂を展開 |
| 7326 | SBIインシュアランスグループ | グロース | 1123 | 死亡・医療、地震保障などの保険に加えペット保険も取り扱う |
| 7780 | メニコン | プライム | 1871.5 | 動物眼科医療の子会社「メニワン」を持つ、愛犬保険も展開 |
| 7818 | トランザクション | プライム | 1712 | ペットウェア雑貨ブランドの「Calulu」を展開 |
| 8113 | ユニ・チャーム | プライム | 5302 | ペットフード、ペットトイレタリー用品などの大手 |
| 8715 | アニコム ホールディングス | プライム | 568 | ペット保険最大手、ペット業界のインフラプレーヤー目指す |
| 8750 | 第一生命ホールディングス | プライム | 3101 | 2023年1月にペット保険大手のアイペットを連結子会社化 |
| 9903 | カンセキ | スタンダード | 1193 | ペットショップのほか、ペットホテル、トリミング店を運営 |
| 9956 | バローホールディングス | プライム | 2221 | ペット専門館「ペットワールド」展開 |

出所：フィスコ作成

日本株 注目銘柄1

日清食品ホールディングス〈2897〉プライム

海外のインスタントラーメン市場で高シェア誇る

■カップ麺類、袋麺類など全般好調

2024年3月期第1四半期業績は、売上収益が前年同期比11.5%増の1665億円、営業利益は同57.5%増の209億円だった。日清食品（株）の販売状況は、カップ麺類、袋麺類、カップライス類が堅調に推移し、各カテゴリーとも増収となった。チルド事業は冷し中華群、焼そば群、パスタ群が伸長したほか、パスタ群では新商品の「日清Spa王」が売上に大きく貢献した。菓子事業では日清シスコ、ぼんち、湖池屋において増益となった。また、睡眠の質を改善するピルクルミラクルケアが好調に推移。

■海外では日本のラーメン文化が浸透

海外では日本のラーメン文化が浸透し、高い人気が続いており、インスタントラーメン市場では同社が高いシェアを誇る。高価格帯が中心のため世界的な景気減速の影響はあるだろうが、即席麺などにおいては、買い手控えによる影響は限定的と考えられる。株価はリバウンド基調を強めており、8月の戻り高値を更新したばかり。5月の年初来高値が射程に入ってきている。

★リスク要因

原材料価格の高騰や為替変動など。

※営業利益、当期利益、1株益は会社計画のレンジ中央値。

| | |
|--------|---------|
| 売買単位 | 100 株 |
| 10/6終値 | 13100 円 |
| 業種 | 食料品 |

■テクニカル分析



2897：日足

75日線が下値支持線として機能する形でリバウンド、直近高値を更新。

(百万円)

| 会計期 | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 経常利益 | 前期比 | 当期利益 | 1株益(円) |
|-----------|---------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2020/3連I | 468,879 | 4.0% | 41,252 | 42,650 | 36.8% | 29,316 | 281.45 |
| 2021/3連I | 506,107 | 7.9% | 55,532 | 56,233 | 31.8% | 40,828 | 391.94 |
| 2022/3連I | 569,722 | 12.6% | 46,614 | 49,182 | -12.5% | 35,412 | 343.49 |
| 2023/3連I | 669,248 | 17.5% | 55,636 | 57,950 | 17.8% | 44,760 | 440.83 |
| 2024/3連I予 | 710,000 | 6.1% | 59,000 | - | - | 43,500 | 429.00 |

日本株 注目銘柄2

ローツエ〈6323〉プライム

世界シェア8割の半導体シリコンウエハー搬送装置

■半導体製造の「前工程」で使用される搬送ロボットを製造

半導体シリコンウエハー搬送装置が主力。シリコンなどの素材で作られた円盤状に薄くスライスされたものをウエハーといい、半導体はこのウエハー上にICチップを作り込んで行く。半導体製造工程にはウエハー上に処理を行う「前工程」と、ウエハーから個々のICチップに分割されてパッケージに組み込む「後工程」がある。同社の半導体シリコンウエハー搬送装置は、発塵（ゴミ）が歩留まりに大きく影響する「前工程」で使用される無塵搬送ロボット。同社はシリコンウエハー搬送装置市場で世界シェア8割を誇る。

■生成AIやデータセンター需要により半導体市場は回復か

2024年2月期第1四半期業績は売上高が前年同期比23%減の167億円、営業利益が同6%減の47億円だった。メモリなどの半導体需要減退に伴う在庫調整や輸出規制強化などの影響により半導体設備投資が減速したことが背景。しかし、今期後半もしくは来期以降には生成AIやデータセンター向けなどへの投資需要拡大により、半導体設備投資は回復に向かうと思われる。

★リスク要因

世界景気減速による半導体設備投資の回復遅延など。

| | |
|--------|--------|
| 売買単位 | 100 株 |
| 10/6終値 | 9390 円 |
| 業種 | 機械 |

■テクニカル分析



6323：日足

25日線、75日線からの乖離が大きくなっており自律反発が期待される。

(百万円)

| 会計期 | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 経常利益 | 前期比 | 当期利益 | 1株益(円) |
|----------|--------|-------|--------|--------|--------|--------|----------|
| 2020/2連 | 37,103 | 18.3% | 7,743 | 7,517 | 25.8% | 5,470 | 316.57 |
| 2021/2連 | 50,803 | 36.9% | 9,314 | 8,487 | 12.9% | 6,470 | 374.40 |
| 2022/2連 | 67,004 | 31.9% | 15,809 | 17,818 | 109.9% | 12,824 | 742.10 |
| 2023/2連 | 94,518 | 41.1% | 26,418 | 30,344 | 70.3% | 21,384 | 1,237.42 |
| 2024/2連予 | 88,026 | -6.9% | 21,619 | 21,553 | -29.0% | 15,718 | 892.13 |

日本株 注目銘柄3

栗田工業〈6370〉プライム

水処理薬品・装置を手掛ける、電子市場向けが4割

■第1四半期は21%増収・27%営業増益

工場やビルで使われる4000規格を超える水処理薬品の製造・販売が売上高の39%、排水処理などの水処理装置事業が61%。分野別では電子市場向けが39%を占める（2023年3月期）。水処理装置事業は、半導体・液晶製造向け超純水供給事業や、顧客から装置部品を預かり自社工場で洗浄する精密洗浄、メンテナンスなどのサービス事業が73%を占める。水処理の状況を見える化し遠隔監視するサービスも提供する。第1四半期営業利益

（IFRS）は前年同期比27.5%増の81.31億円。値上げ効果などもあり、売上高は同21.3%増加。コスト低減の取り組みに加え、為替差益（その他の収益）も利益伸長に寄与した。

■半導体市場は下期持ち直しを見込む

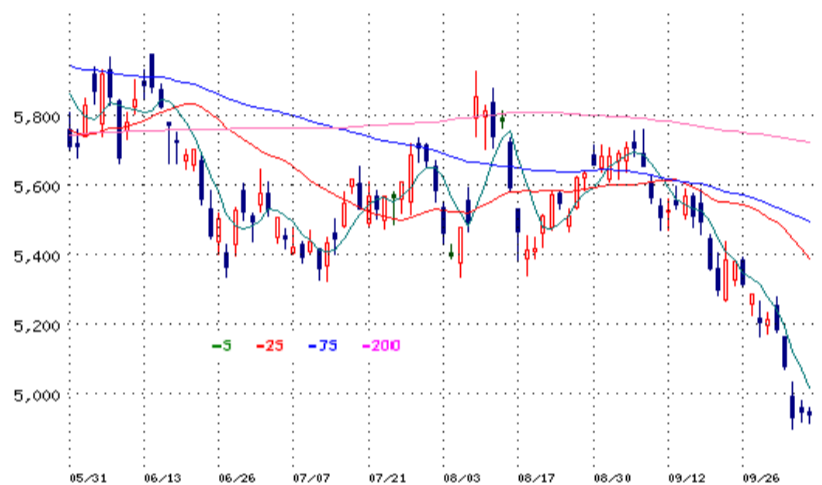
24年3月期営業利益は前期比34.2%増の390億円予想。装置案件の売上計上や薬品事業の伸長が寄与する見込み。前期に米国法人で、のれんの減損損失を計上した反動もあり、営業利益が伸長する見込み。なお、半導体市場は生産調整の局面にあり、前期に比べてマイナス成長が見込まれるが、下半期より持ち直しの動きになるとみられている。株価は調整局面ではあるが業績は好調だ。

★リスク要因

半導体市場の回復の遅れや円相場の急激な変動など。

| | |
|--------|--------|
| 売買単位 | 100 株 |
| 10/6終値 | 4939 円 |
| 業種 | 機械 |

■テクニカル分析



6370：日足

好業績の一方、株価は年初来安値近辺。中期的には投資チャンス到来の可能性。

(百万円)

| 会計期 | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 経常利益 | 前期比 | 当期利益 | 1株益(円) |
|-----------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2020/3連I | 264,807 | 2.9% | 27,479 | 26,691 | 31.7% | 18,287 | 162.86 |
| 2021/3連I | 267,749 | 1.1% | 31,529 | 29,150 | 9.2% | 19,088 | 169.94 |
| 2022/3連I | 288,207 | 7.6% | 35,734 | 30,079 | 3.2% | 18,471 | 164.38 |
| 2023/3連I | 344,608 | 19.6% | 29,058 | 30,151 | 0.2% | 20,134 | 179.14 |
| 2024/3連I予 | 375,000 | 8.8% | 39,000 | 38,200 | 26.7% | 27,000 | 240.21 |

日本株 注目銘柄4

レーザーテック 〈6920〉 プライム

生成AIのヒットで半導体検査装置の需要高まる

■マスク検査装置は世界で100%シェア誇る

半導体検査装置大手。先端半導体の製造に欠かせない「EUV（極端紫外線）露光技術」に対応したマスク検査装置などを手掛け、世界で100%のシェアを持つ。デジタル機材に使う半導体が小型化・高性能化するなかで、検査装置への要求の質も高まっている。生成AI（人工知能）や自動運転など半導体の用途が広がっているなか、半導体検査装置の需要は高まっている。先週は「Chat GPT」を手掛けるオープンAI社が独自の半導体開発を検討していることが明らかになったと報じられた。内製化することでコスト低減につなげる狙いなどがあると考えられるが、同社においては半導体検査装置の需要拡大につながりそうだ。

■信用需給が大きく改善

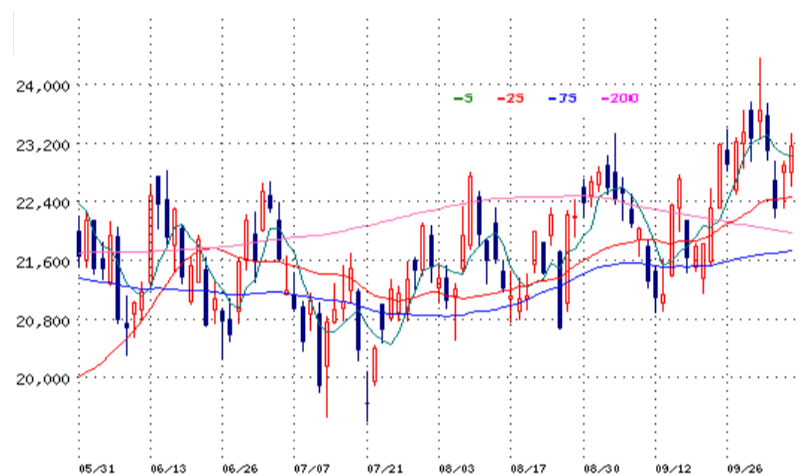
足元の半導体市況は世界的な景気後退で緩んでいることから、関連企業の株価は不安定な値動きを見せているが、同社の株価は緩やかなリバウンド基調を継続しており、直近では24370円まで買われた。信用倍率は9月29日時点で1.20倍と、8月下旬の5.30倍から取り組みが大きく改善している。

★リスク要因

景気減速による投資抑制など。

| | |
|--------|---------|
| 売買単位 | 100 株 |
| 10/6終値 | 23160 円 |
| 業種 | 電気機器 |

■テクニカル分析



6920 : 日足

25日線および75日線が下値支持線として意識されている。

(百万円)

| 会計期 | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 経常利益 | 前期比 | 当期利益 | 1株益(円) |
|----------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2020/6連 | 42,572 | 48.0% | 15,062 | 15,115 | 92.9% | 10,823 | 120.02 |
| 2021/6連 | 70,248 | 65.0% | 26,074 | 26,438 | 74.9% | 19,250 | 213.47 |
| 2022/6連 | 90,378 | 28.7% | 32,492 | 33,582 | 27.0% | 24,850 | 275.57 |
| 2023/6連 | 152,832 | 69.1% | 62,287 | 63,668 | 89.6% | 46,164 | 511.89 |
| 2024/6連予 | 190,000 | 24.3% | 64,000 | 64,000 | 0.5% | 47,000 | 521.16 |

日本株 注目銘柄5

スギホールディングス〈7649〉プライム

上期業績は堅調、インバウンド消費継続に期待

■物販及び調剤売上が好調に推移

調剤併設型ドラッグストア「スギ薬局」を展開。上期の営業利益は前年同期比11.9%増の173億円に伸び、通期計画の330億円に対する進捗率は52.4%となった。物販及び調剤売上が好調に推移した。コロナ関連商材が前年同期の高水準の反動で苦戦したものの、外出需要や食品需要の高まりが続いたことで物販関連商品の売上が増加。また、猛暑により季節商品も堅調に推移、調剤売上也花粉症や風邪などの拡大により処方せんの応需枚数が増加した。8月の月次速報では客単価が前年同月比で2桁増を継続、23年8月末の店舗数は1618店に増加している。

■200日線を意識した底堅さ

株価は全体相場が軟調なか、200日移動平均線を意識した底堅さが見られている。7月の訪日客数はコロナ前19年水準の8割まで回復、中国では10月1日の国慶節に合わせて大型連休に入っており、ANAによると中国発便は9月28～30日が「ほぼ満席状態」だったという。ドラッグストアは訪日外国人が買い物を楽しんでいる場所として上位で、インバウンド消費回復が進むなか引き続き好影響が期待できそうだ。

★リスク要因

薬価改定による収益性の低下、インバウンド消費の減退など。

| | |
|--------|--------|
| 売買単位 | 100 株 |
| 10/6終値 | 6017 円 |
| 業種 | 小売業 |

■テクニカル分析



7649：日足

6000円に浮上して窓埋めの動きに期待。

(百万円)

| 会計期 | 売上高 | 前期比 | 営業利益 | 経常利益 | 前期比 | 当期利益 | 1株益(円) |
|----------|---------|-------|--------|--------|-------|--------|--------|
| 2020/2連 | 541,964 | 11.0% | 29,762 | 31,473 | 15.6% | 20,782 | 336.21 |
| 2021/2連 | 602,850 | 11.2% | 34,041 | 35,333 | 12.3% | 21,120 | 341.68 |
| 2022/2連 | 625,477 | 3.8% | 32,137 | 33,082 | -6.4% | 19,389 | 313.68 |
| 2023/2連 | 667,647 | 6.7% | 31,658 | 32,391 | -2.1% | 19,007 | 311.45 |
| 2024/2連予 | 724,500 | 8.5% | 33,000 | 34,500 | 6.5% | 20,000 | 331.58 |

| 日付 | 曜日 | 時間 | 内容 | 市場コンセンサス | 前回数値 |
|--------|---------------------------------------|--------------|------------------------------------|-----------|-------------|
| 10月11日 | 水 | 13:30 | 三菱重が宇宙事業に関する説明会開催 | | |
| | | 15:00 | 工作機械受注(9月) | | 17.6% |
| | | | 東証がカーボン・クレジット市場を開設 | | |
| | | | 決算発表 東宝 | | |
| | | 15:00 | 独・CPI(9月) | 0.3% | 0.3% |
| | | 21:00 | ブ・IBGEインフレ率IPCA(9月) | 0.37% | 0.23% |
| | | 21:30 | 米・生産者物価コア指数(9月) | | 2.2% |
| | | 27:00 | 米・連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨(9月19-20日会合分) | | |
| | | | 米・ボウマンFRB理事が講演 | | |
| | | | 米・アトランタ連銀総裁が講演 | | |
| | | | 米・下院議長選の予定 | | |
| | モロッコ・G20財務相・中央銀行総裁会議・関連会合(13日まで) | | | | |
| | 独・30年債入札 | | | | |
| 10月12日 | 木 | 08:50 | 国内企業物価指数(9月) | 2.4% | 3.2% |
| | | 08:50 | コア機械受注(8月) | -0.3% | -1.1% |
| | | 08:50 | 銀行貸出動向(含信金前年比)(9月) | | 3.1% |
| | | 08:50 | 貸出動向 銀行計(9月) | | 3.4% |
| | | 10:00 | 営業毎旬報告(10月10日現在、日本銀行) | | |
| | | 10:30 | 野口日銀審議委員が講演、同記者会見 | | |
| | | 11:00 | 東京オフィス空室率(9月) | | 6.4 |
| | | | 富士通がESG説明会開催 | | |
| | | | 決算発表 ファストリ、7&iHD | | |
| | | 15:00 | 英・鉱工業生産指数(8月) | | -0.7% |
| | | 15:00 | 英・商品貿易収支(8月) | | -140.64億ポンド |
| | | 21:00 | 印・鉱工業生産(8月) | 9.3% | 5.7% |
| | | 21:00 | 印・消費者物価指数(9月) | 5.50% | 6.83% |
| | | 21:30 | 米・消費者物価コア指数(9月) | 4.1% | 4.3% |
| | | 21:30 | 米・新規失業保険申請件数(先週) | | 20.7万件 |
| | | 27:00 | 米・財政収支(9月) | | 893億ドル |
| | | | 欧・欧州中央銀行(ECB)議事要旨(9月会合) | | |
| | | | 米・アトランタ連銀総裁が会議で歓迎のあいさつ | | |
| | | | 伊・3年債、7年債入札 | | |
| | | | 石油輸出機構(OPEC)月報 | | |
| 10月13日 | 金 | 08:50 | 対外・対内証券投資(先週) | | |
| | | 08:50 | マネーストック(9月) | | |
| | | 13:30 | 「生活意識に関するアンケート調査」(第95回)の結果発表(日本銀行) | | |
| | | 10:30 | 中・消費者物価指数(9月) | 0.2% | 0.1% |
| | | 10:30 | 中・生産者物価指数(9月) | -2.4% | -3.0% |
| | | 18:00 | 欧・ユーロ圏鉱工業生産指数(8月) | | -1.1% |
| | | 21:30 | 米・輸入物価指数(9月) | 0.6% | 0.5% |
| | | 23:00 | 米・ミシガン大学消費者信頼感指数速報(10月) | 67.5 | 68.1 |
| | | | 中・貿易収支(9月) | 737.0億ドル | 683.6億ドル |
| | | | 印・貿易収支(9月、16日までに) | -233.0億ドル | -241.6億ドル |
| | | | 米・フィラデルフィア連銀総裁が講演 | | |
| | 英・ベイリーイングランド銀行(英中央銀行)総裁が講演 | | | | |
| | 決算発表 JPモルガン、ウェルズ・ファーゴ、ブラックロック、シティグループ | | | | |
| 10月14日 | 土 | | 英・ベイリー英中央銀行総裁が講演 | | |
| | | | NZ・総選挙 | | |
| | | 豪・憲法改正巡る国民投票 | | | |
| 10月15日 | 日 | | 米・財務省の半期に一度の為替報告書の議会提出期限 | | |
| 10月16日 | 月 | 13:30 | 鉱工業生産確報値(8月) | | 0.0% |
| | | 13:30 | 設備稼働率(8月) | | -2.2% |
| | | 18:00 | 欧・貿易収支(8月) | | 29億ユーロ |
| | | 21:30 | 加・卸売売上高(8月) | | 0.2% |
| | | 21:30 | 米・ニューヨーク連銀製造業景気指数(10月) | | 1.9 |
| 10月17日 | 火 | 06:45 | NZ・CPI(7-9月) | | 1.1% |
| | | 09:30 | 豪準備銀行(中央銀行)、金融政策会合議事要旨公表 | | |
| | | 13:30 | 第三次産業活動指数(8月) | | 0.9% |
| | | 15:00 | 英・失業保険申請件数(9月) | | 0.09万件 |
| | | 15:00 | 英・失業率(9月) | | 4.0% |
| | | 18:00 | 独・ZEW景況感調査(10月) | | -11.4 |
| | | 18:00 | 欧・ZEW景況感調査(10月) | | -8.9 |
| | | 21:30 | 加・CPI(9月) | | 0.4% |
| | | 21:30 | 米・小売売上高(9月) | | 0.6% |
| | | 22:15 | 米・鉱工業生産(9月) | | 0.4% |
| | | 22:15 | 米・設備稼働率(9月) | | 79.7% |
| | | 23:00 | 米・企業在庫(8月) | | 0.0% |
| | | 23:00 | 米・NAHB住宅市場指数(10月) | | 45 |

重要事項 (ディスクレマー)

当レポートは株式会社時事通信社が企画し、株式会社フィスコが編集しております。当レポート上で提供している内容は、信頼に値すると判断した情報を基に作成されていますが、あくまでも情報提供が目的であり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。当レポートに基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは保証を行っておらず、理由のいかに問わず責任を負いません。投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願い致します。

J Trust Global Securities

Weekly Market Report

【ご投資にあたって】

本レポートの記載の内容を参考にしてお取引をされる場合、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式（売買単位未満を除く）の場合は約定代金に対して最大1.1524%（税込）（但し約定代金の1.1524%（税込）に相当する額が3,300円（税込）に満たない場合は3,300円（税込）の委託手数料をご負担いただきます。また、株式相場、金利水準、不動産相場、商品相場等の価格の変動等及び有価証券の発行者の信用状況（財務・経営状況含む）の悪化等、それらに関する外部評価の変化等により損失が生じるおそれ（元本欠損リスク）があります。尚、信用取引などを行う場合には、対象となる株式等または指標等の価格変動により損失の額がお客様の差し入れた委託保証金などの額を上回るおそれ（元本超過損リスク）があります。尚、商品毎に手数料及びリスク等は異なりますので、当該商品の目論見書及び契約締結前交付書面をよくお読みください。

【免責事項】

本資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されたものですが、当社はその正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。本資料に基づき投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、当社は、理由の如何を問わず責任を負いません。本資料は、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の銘柄等の勧誘、売買の推奨または相場動向の保証等を行うものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、本資料をお客様ご自身のためのみ、お客様の限りでご利用ください。尚、当社の事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

【利益相反情報について】

当社および関係会社又はその役職員は、本資料に記載された証券についてポジションを保有している場合があります。また、本資料に記載された会社に対して、引受等の投資銀行業務、その他のサービス提供の勧誘を行なう場合があります。当社の役員（会社法に規定する取締役、監査役又はこれに準ずる者をいう。）が、以下の会社の役員を兼務しております。

Jトラスト株式会社、株式会社KeyHolder、株式会社フォーサイド

■Jトラストグローバル証券株式会社 本支店リスト■

| | | | |
|-------------|-----------|----------------------------------|--------------|
| 本社営業部 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0219 |
| 葛飾支店 | 〒124-0012 | 東京都葛飾区立石7-4-13 | 03-3693-0081 |
| 飯能支店 | 〒357-0035 | 埼玉県飯能市柳町23-6 岡部飯能ビル1階 | 042-973-1181 |
| 横浜支店 | 〒231-0015 | 神奈川県横浜市中区尾上町2-18-1 YSビル1階 | 045-680-4355 |
| 大船支店 | 〒247-0056 | 神奈川県鎌倉市大船1-24-19 カサハラビル大船IV1階 | 0467-41-1721 |
| 名古屋支店 | 〒450-0002 | 愛知県名古屋市中村区名駅3-25-9 堀内ビルディング2階 | 052-686-5940 |
| 大阪支店 | 〒530-0002 | 大阪府大阪市北区曾根崎新地1-4-10 銀泉桜橋ビル3階 | 06-6442-3040 |
| 福岡支店 | 〒810-0001 | 福岡県福岡市中央区天神2-13-18 天神ホワイトビル1階 | 092-736-6021 |
| ウェルスマネジメント部 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0221 |
| インターネット取引 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0300 |
| コールセンター取引 | 〒150-6007 | 東京都渋谷区恵比寿4-20-3 恵比寿ガーデンプレイスタワー7階 | 03-4560-0350 |